

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—いたずら分析 その2—

NO. 53



『いたずら分析 その1』(NO.40 R1年9月号)では、「いたずらは、周囲のモノがどうなっているのか知るための行動です」「大人の気を引くためのいたずらもある」といったことを話題にしました。その頃「困ったな～」と感じていた子どもの行動、どんなふうに変化していききましたか？「遊びが増えてきたら、いたずらめいたことが減ってきました」との嬉しい話や、「最近は手口が巧妙になってきました」と相変わらず困っている話等、いろいろ聞こえてきそうです。

さて、そもそも「それは“いたずら”です！」って誰が決めるのでしょうか？“いたずら”と検索してみると、“人の迷惑になることをすること”“もてあそんではいけないものをいじったり、オモチャにしたりすること”などと出てきます。言われれば全くその通りですが、子どもにしてみれば、どこに線引きがあるのか分かりにくいのも事実です。だって、さっきまで外で水遊びをしていて、お父さんがホースで水をかけてきたのに、家の洗面所で同じことをしたら「ダメ！」と怒られます。クレヨンの楽しさが分かってきて描いていたなら、「なんでそんなところに描くの！」と怒られます。いつもお母さんが明かりのスイッチを付けたり消したりしているのに、僕がやると(何回もですが)「それやっちゃダメでしょ！」と怒られます。なぜダメ？どうしてダメ？どう説明しますか？

生活の中には、“ルール”“マナー”といった目に見えない“決まりごと”があります。それも、やっていいときとダメなときがあり、やっていい場所とダメな場所があります。なんとも伝え方がむずかしいですね。子どもにとって理解しやすい環境とはどんなものでしょう。

まずは、わかりやすく『条件を付ける』ことです。「それをするときには、これと一緒に」「やる場所はここで」といった条件があると分かりやすくなります。例えば、「青いホースを使うときは水遊び OK」「洗面所は、手を洗うことと歯を磨くことだけ」「クレヨンを使うときには、この机で新聞紙を引いて、このスケッチブックだけに描く」「ボールで遊ぶのはお庭で(ここではやらない)」など、このアイテムが揃わないとできないことを、実際に何度かやって伝えていきます。そして、しばらくは、「今日はここでもいいか…」と、やってしまわないこと。これは大人のメリハリです。

もうひとつ、『そうではなくてこれをしよう』作戦です。ホースで水を撒き散らすのではなく、プランターのお花に水をあげてもらいます。投げるのはコップではなく、このボールで。それでもやってしまうようなら、楽しい状況にせずに取り合わないこと。巻き込まれたら大人の負けですね。(負けて巻き込まれちゃったら、次は少しがんばりましょう)

そしてもうひとつ。おそらく子どもは、暇になっているから、手頃な“いたずら”に走ってしまうことが多いと思います。少し時間はかかりますが、『お決まりの遊びのメニューを増やしていく』ことです。あんずでも一緒に取り組み、考えていきましょう。向き合う遊びの充実は、やりとりの豊かさにもつながり、「ちょっと待ってて」で待てるようになってきます。ひとりで遊んでいてほしい時間もたくさんあると思います。スマートに楽しめ過ごせるものは何か？一緒に見つけていきましょう。



これは、大人一人で成せることではないです。みんなで協力していかなくちゃ！
時間はかかりますが“いたずら”は遊びの種です。上手に芽吹かせたいですね。(R2. 10) K